

玉川上水・野の花だより No. 4 2

ススキ *Miscanthus sinensis* (イネ科)

東京大学名誉教授 中央大学研究開発機構・機構客員教授

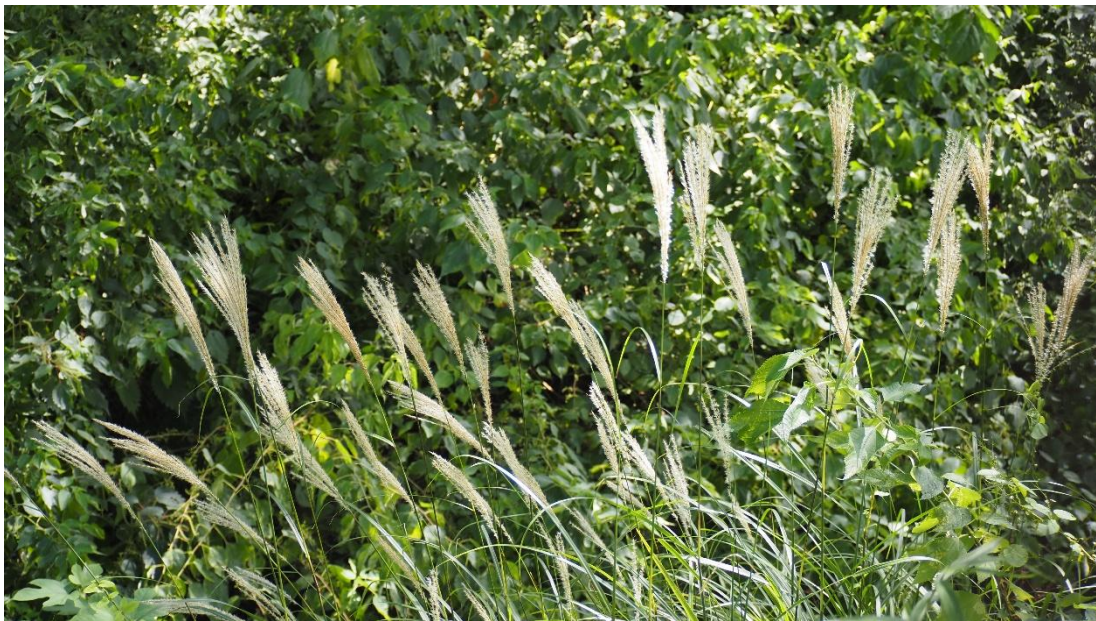
石川 幹子 2026年 9月 23日

玉川上水は、羽村取水堰から内藤新宿までは「素掘り開渠」で開削され、そこから江戸市中には「木樋」により配水され、人々の暮らしを支えてきました。

稲荷橋から第二号橋、そして第三号橋から笹塚橋の地区は、市民の皆様の請願により開渠として保存され「国指定史跡」となっている重要な区間です。

「素掘り開渠」を象徴する野の花が「ススキ」です。かつては、どこでもみられたススキですが、現在、玉川上水の下流域では、この区間でしか、みることができません。稲荷橋から第二号橋の間の素掘り開渠で、南側の日当たりのよい法面にススキの穂が揺れる頃となりました。高いフェンスの向こうですが、やがて、アキアカネがおとずれ、都会の真ん中で、「本物の秋」を堪能することができます。ススキは、山上憶良も、万葉集で「秋の七草」に詠んでおり、「尾花」がススキに相当します。

秋の野に 咲きたる花を 指（および）折り かき数ふれば 七種（ななくさ）の花
萩の花 尾花 葛花 なでしこの花 をみなえし また藤袴 朝顔の花



ススキ 稲荷橋～第二号橋 左岸 2026年 9月 22日